

## 化粧品総合学科 3つのポリシー

### ディプロマポリシー(卒業までに身に付けるべき資質)

化粧品業界の現場で顧客のニーズに対応し、新しい化粧品を提案・開発・製造することのできる力を持った職業人になることを養成目的としています。

1. 学内における実習を通じて社会人基礎力が培われている。
2. 化粧品業界との連携により職業人としての人間力、社会人としての身構え、気構え、心構えを身に付けている。
3. 化粧品の各分野で必要とされる知識・技術・資格を取得することで身に付けている。
4. 他者や異文化に対する理解を深め、自らの見解と高い視野を備えた国際感覚を身に付けている。

### カリキュラムポリシー(教育課程の編成、実施方針)

化粧品の処方開発、製造、分析、申請等についての専門知識と技術を持ち、共同実習を通じて、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、問題解決力を養うと共に、化粧品を作り上げることが出来るようになることを教育目標としています。それを実現するために、「専門職業教育」と「キャリア教育」を体系的に一体化した職業人教育のカリキュラムと国際感覚を身につけるプログラムを提供します。

1. 産学連携による実習・研修を重視したカリキュラムを提供する。
2. 入学者ひとり一人の人的成長とキャリア設計を支援する。
3. グローバルの中、国際人としての基礎プログラムを提供する。
4. 基礎学力の向上を図るプログラムを提供する。

### アドミッションポリシー(求める人材像)

化粧品総合学科で学ぶことを強く望み、化粧品をつくるための資格取得や専門就職に向けて、強い意欲を持って取り組むことのできる以下の人材を受け入れます。

1. 化粧品の業界で働くことを望み、専門就職に向けて意欲を持って取り組める人。
2. 目標に向けて努力できる人。
3. 他者との関わり、コミュニケーションを学ぼうと意欲のある人。